

劇団風雷望による《朗読劇》特別公演

# KUNIYOSHI

## 万国津梁の鐘を造った男

企画・原案 宮村 みつお 脚本 筒井 英一

◆2023年11月19日(日)

開場:13時30分 開演:14時 ※終演16時

◆北九州芸術劇場(小劇場)

◆全席自由席 4,000円

(朗読劇を事前収録したCD付)



皆様こんにちは。私は行橋生まれ行橋育ちの沖繩大好き人間、宮村みつおと申します。皆さんは沖繩の歴史に興味がありますか？NHKの大河ドラマ「鎌倉殿の十三人」は鎌倉時代の初期、つまり12世紀末から13世紀初めにかけての物語ですが、当時の沖繩は、ようやく農耕生活が始まって、後に按司(あじ)と呼ばれる各地の豪族たちが、石垣で囲まれたグスク(城)などを拠点に、次第に力をつけてきた時代です。

その後14世紀になると、中山、南山、北山という三つの勢力に集約され、それぞれが拮抗して争う三山時代を迎えます。そして1429年。中山王となつた尚巴志が三山を統一し、琉球に最初の統一王朝が誕生します。

しかし尚巴志王の跡を継いだ息子達は、いずれも数年間在位しただけで次々に亡くなり、政権も不安定になってしまいます。そこで末息子の尚泰久が第六代の琉球国王となると、深く帰依していた仏教に安定した国づくりの基盤を求め、数多くの仏教寺院を建立するとともに、23もの梵鐘を一気に鑄造させました。そしてそれらの一部は現在にまで残され、貴重な歴史の証言者となっているのです。

さて、このお話はそうした梵鐘がテーマの物語です。これらの鐘は、カタチの特徴から、九州北部・豊前や筑前の鑄物師が造つたものだろうと考えられています。具体的なお話の場所の特定はなされていません。中でも有名なものが、その鐘に刻まれている銘文から、「万国津梁の鐘」と呼ばれている梵鐘で、首里城正殿に架けられていたとされています。

この鐘を造つた鑄物師として名前が刻まれている「藤原国善」という人は？そして、多くの琉球鐘に名前が残る「藤原国吉」という人物との関係は？どちらも「くによし」と読める二人の鑄物師とは・・・

さあ、琉球史に秘められた謎解きの旅、ご一緒しませんか？

